

研究大学コンソーシアム（RUC）の活動について

1. 令和 3 年度の活動実績について

(1) 全体会議および運営委員会の開催

研究大学コンソーシアム（RUC）は、研究大学強化促進事業の採択機関をはじめとした研究力強化に積極的に取り組む大学等により構成され、各機関における好事例や課題の発信・共有を目的としている。運営に当たっては、すべての構成機関が参加し、コンソーシアムとしての方針を決定する「全体会議」（議長：山本進一 自然科学研究機構客員教授）を設置している。

3 月には、今年度の活動報告及び来年度の活動計画等について議論する全体会議を開催する予定。なお、全体会議のほか、幹事機関のアドバイザーボードとして「運営委員会」（委員長：金子修 自然科学研究機構理事）を設置しており、適宜開催している。（※全体会議、運営委員会の構成機関は別添参照）

〈今年度の全体会議 開催実績〉

・ 第 7 回 令和 4 年 3 月 17 日（木）（予定） オンライン開催

審議事項：令和 3 年度活動報告および令和 4 年度活動計画（案）について 等

(2) タスクフォースにおける活動

構成機関における共通する課題・テーマについて、4 つのタスクフォースを設置して活動している。また、タスクフォースの活動の一環として、勉強会等も適宜実施している。タスクフォースは、各大学等から推薦された各テーマに係る専門家（※）の検討の場となっている。

（※）「高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース」については、執行部側の視点で議論できる者の参加としている。

○ 高度専門人材・研究環境支援人材の活用に関するタスクフォース

（座長：自然科学研究機構、33 機関が参加）

令和 3 年度は、文部科学省科学技術人材育成費補助金「リサーチ・アドミニストレーター等のマネジメント人材に係る質保証制度の実施」事業への有識者の参加等、URA の質保証を目指した取組みを進めた。また、研究大学強化促進事業を通じた成果を踏まえ、URA による研究力強化の在り方について、活発な議論を行った。

○ 研究力分析の課題に関するタスクフォース

（座長：大阪大学、31 機関が参加）

令和 3 年度は、Times Higher Education (THE) とのミーティングを引き続き行い、世界大学ランキングに関する指標変更の検討状況について情報収集するとともに、世界大学ランキングアドバイザーボードメンバーの推薦を行った。また、研究力分析 IR に関する事例集を作成するため、編集委員会を組織し、取り組み例の募集を行った。

また、大学の研究 IR の実務上の課題をはじめとしたトピックに関して、人材育成ワークショップの一つを担当することとした（令和4年3月（予定）、後述）。

○ 国際情報発信に関するタスクフォース

（座長：京都大学、26機関が参加）

令和3年度は、大学等の国際情報発信力を強化・促進するため、引き続き、AAAS（米国科学振興協会）とも連携し、EurekAlert!を国際情報発信プラットフォームとして、英文プレスリリース作成支援サービス（NRAP）の活用などの取組みを進めた。

また、国際情報発信に関する諸課題や好事例に関して、人材育成ワークショップの一つを担当することとした（令和4年3月（予定）、後述）。

○ 異分野融合タスクフォース

（座長：東京工業大学、27機関が参加）

令和3年度は、分野や機関の枠を超えた共同研究を企画・立案・推進していくため、URAの活動に資するDXプラットフォーム及びその試行としての「MIRAIプロジェクト」を進める上での課題等について議論を行った。

（3） 研究大学コンソーシアムシンポジウム（第5回）の開催

RUC構成機関における研究力強化に係る好事例等の共有を図るため、構成機関以外も対象に「研究大学コンソーシアムシンポジウム（第5回）」を開催した。今回は、「連携と共創による研究力強化」をテーマとして、日本学術振興会世界トップレベル拠点形成推進センターとの共催によりオンラインで実施し、延べ500名を超える参加者があった。

開催日：10月29日（金）

○ ポスター発表：17機関が自大学の研究力強化の取組み、好事例をポスターで紹介

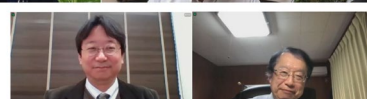
○ メインセッション：

（午前の部）

- ・ 基調講演：
室伏 きみ子（お茶の水女子大学名誉教授・前学長）
- ・ 研究大学コンソーシアムの活動について：山本 進一（RUC 全体会議議長）
※このほか、文部科学省より話題提供が行なわれた

（午後の部）

- ・ パラレルセッション1
テーマ「研究力強化に資する研究支援の連携の取組」
パネリスト：慶應義塾大学、WPI-ASHBi、
電気通信大学
- ・ パラレルセッション2
テーマ「情報発信・広報活動による連携創出」
パネリスト：信州大学、東京大学、北海道大学
- ・ パラレルセッション3



パラレルセッションの様子

テーマ「企業による社会課題解決」

パネリスト：東京大学、名古屋大学、JAXA、東北大学

(4) ホームページの運用

岡山大学を座長機関とする「広報・情報チーム」を設置し、ホームページの運用を行っている。
令和3年度は、RUC 構成機関における好事例、URA 等の取組み、関連イベント等について、随時情報発信を行った。引き続き、ホームページ内の情報発信と内容の充実を図っている。

また、各機関における URA の活動をアピールするため、ホームページに各機関の URA 活動を紹介するコーナーを設置する予定である。

(広報・情報チームの構成機関は、別添参照)

※研究大学コンソーシアム (RUC) ホームページ (<https://www.ruconsortium.jp/>)

(5) 「エグゼクティブセミナー」「研究力強化人材育成ワークショップ」の実施

研究大学群にとって有益と思われるテーマについて、令和元年度より、新たに研究力向上に寄与する取組を実施している。

○ エグゼクティブセミナー

研究大学コンソーシアム構成機関の研究担当幹部等を対象に、大学における研究力強化に資するセミナーとして、有識者による講演とディスカッションを実施した。今回はポストコロナを見据え、デジタル・トランスフォーメーション (DX) に関係する各分野の有識者から、研究大学における研究力強化に資する考え方や進め方について、好事例等の紹介があった。

「デジタル立国時代の研究大学の研究力強化」

開催日：9月10日(金) オンライン開催 95名参加

○ 研究力強化人材育成ワークショップ

研究大学の URA 及び事務職員に向けて、EBPM 的手法等に係る取組・好事例を紹介するとともに、今後の取組の促進、URA-事務連携の強化・促進に資するワークショップを開催している。

- ・ 第1回 令和4年3月中(予定) オンライン開催
大学のブランディング戦略について、国際広報や大学のレピュテーション向上など含めたワークショップ。国際情報発信タスクフォースが企画を担当。
- ・ 第2回 令和4年3月中(予定) オンライン開催
研究力分析・研究 IR に関する実務上の課題や、好事例の共有などに関するワークショップ。
研究力分析タスクフォースが企画を担当。

(6) 「DX プラットフォーム」の構築

研究大学強化促進事業の「URA による研究 DX を推進するデータの整備・構築」の一環として、異分野融合タスクフォース(座長：東京工業大学 新田元 研究戦略部門長)等における議論を踏まえた URA の活動に資する DX プラットフォームの企画案に基づき、DX プラットフォームの構築を進めた。また並行して、DX プラットフォームの試行として、分野や機関の枠を超えた共同研究「MIRAI

プロジェクト」(Multidisciplinary trans-Institutional Research Assistance Initiative) を立ち上げ、7 大学（東北大学、筑波大学、東京工業大学、電気通信大学、京都大学、岡山大学、自然科学研究機構）による検討チームをつくり企画検討した上で、RUC 構成機関の URA 同士の情報交換により、トップダウン（「ポストコロナ」）とボトムアップの課題について、研究者マッチング・研究チーム立案から研究費獲得支援までを見据え、URA が伴走して実施した。ポストコロナに関しては構成機関から 113 名の研究者が伴走 URA とともに参加、またボトムアップテーマは 14 のテーマが集まり、それぞれマッチングを引き続き実施している（令和 4 年 3 月に報告会を予定）。

2. 今後の活動予定

- ・ 全体会議の開催（年 1～2 回程度）
- ・ 各タスクフォースの活動（合議またはメールによる開催のほか、タスクフォース主催の勉強会等も随時開催し、各テーマについてさらに議論・情報共有を進める）
- ・ 「研究大学コンソーシアムシンポジウム（第 6 回）」の開催
- ・ ホームページの運用（RUC 構成機関における好事例、URA 等の取組み、関連イベントなど、随時情報発信を行う）
- ・ 「エグゼクティブセミナー」「研究力強化人材育成ワークショップ」の実施
- ・ 「DX プラットフォーム」を活用した事業の実施

* 上記のほか、研究力強化に関する取組みを必要に応じて実施していく。

以上

1. 研究大学コンソーシアム構成機関

	大学等機関名		大学等機関名
1	北海道大学	19	大阪大学
2	東北大学	20	神戸大学
3	筑波大学	21	岡山大学
4	千葉大学	22	広島大学
5	東京大学	23	山口大学
6	東京医科歯科大学	24	徳島大学
7	東京農工大学	25	九州大学
8	東京工業大学	26	九州工業大学
9	電気通信大学	27	長崎大学
10	横浜国立大学	28	熊本大学
11	新潟大学	29	北陸先端科学技術大学院大学
12	金沢大学	30	奈良先端科学技術大学院大学
13	福井大学	31	東京都立大学
14	信州大学	32	早稲田大学
15	名古屋大学	33	慶應義塾大学
16	名古屋工業大学	34	自然科学研究機構
17	豊橋技術科学大学	35	高エネルギー加速器研究機構
18	京都大学	36	情報・システム研究機構

2. 運営委員会構成機関

	大学等機関名		大学等機関名
1	筑波大学	6	岡山大学
2	東京大学	7	九州大学
3	名古屋大学	8	熊本大学
4	京都大学	9	奈良先端科学技術大学院大学
5	大阪大学	10	自然科学研究機構

3. 広報・情報チーム構成機関

	大学等機関名		大学等機関名
1	電気通信大学	3	自然科学研究機構
2	岡山大学	4	情報・システム研究機構